

2024 年 8 月 28 日

■+■-----
+■┐ 中部防災推進ネットワーク
メールマガジン Vol.47
■┐-----

各 位

中部防災推進ネットワークの参画メンバーの皆さまに、
メールマガジン（2024 年 8 月号）を配信します。

※メールマガジンのバックナンバー、これまでの会合の
発表資料等は中部防災推進ネットワークホームページに
掲載しています。

<中部防災推進ネットワークホームページ URL>
[http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/chububosai-
nw.html](http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/chububosai-nw.html)

1. 本ネットワークの参画団体のご寄稿

（1）愛知県医薬品卸協同組合

医薬品卸は国民の大切な命を守るため、平時・有事を問
わず医薬品の安定供給を果たすべく、「毛細血管型」の流
通網により約 130,00 品目の医療用医薬品を全国 240,000
軒の医療機関や調剤薬局へ日常的に供給しています。

また災害・パンデミック時に備え、拠点物流センターの
免振・耐震化や停電に備えた自家発電設備、非常用連絡
手段としての衛星電話の配置等の対応をしています。

緊急時に迅速に対応する為、国や地方自治体及び医師会・
薬剤師会などの地域医療と常に連携を強化し、医薬品の
安定供給を通じ地域医療を支える行動に取り組んでいま
す。

愛知県医薬品卸協同組合としても行政との災害時における緊急通行車両の事前登録、大規模災害発生時における医療救護活動に必要な医薬品、医療機器及び衛生材料のランニング備蓄（医薬品卸の通常の流通在庫に上乗せした備蓄）を実施しています。

この備蓄品目は、他の地域からの供給が期待できない大規模災害発生後3日間において緊急性の点で優先度の高い「外傷等用」を主とした医薬品等としています。

平成25年8月には愛知県と災害用医薬品等の供給に関する協定も締結し地域に貢献していきたいと考えております。

ただ一業種だけでは活動範囲に限界もあります。中部防災推進ネットワークを通じ他業種と連携する足掛かりや、知見を広げていければと思っています。

<参考>愛知県医薬安全課「災害時における医薬品等供給マニュアル」（暫定版）

[災害時における医薬品等供給マニュアル - 愛知県 \(pref.aichi.jp\)](http://pref.aichi.jp)

○文責（愛知県医薬品卸協同組合

）

2. 本ネットワークの参画団体からのお知らせ

（防災イベントの予定等）

（1）愛知県

○イベント名

愛知県・阿久比町総合防災訓練

○開催日時

令和6年9月1日（日）午前9時から午前11時30分まで（予定）

○開催場所

阿久比町多目的広場用地、町立阿久比中学校等

○概要

例年、防災週間（8月30日から9月5日まで）を中心とする

期間に県内市町村との共催により、「総合防災訓練」を実施

しています。今年度は、愛知県・阿久比町の共催により実施します。

○Web ページ URL

[令和6年度愛知県・阿久比町総合防災訓練の実施について - 愛知県 \(pref.aichi.jp\)](https://www.pref.aichi.jp/soshiki/saigai/saigai.html)

※一般見学が可能です。公共交通機関をご利用ください。

※天候等により、中止もしくは延期の可能性があります。

（2）愛知県警察本部

○イベント名

令和6年度愛知県警察災害警備訓練（交通対策訓練）

○開催日時

令和6年9月2日（月）午前10時30分から午前11時30分ごろまでの間

○開催場所

名古屋市中区内 県道田名名古屋線（市役所北交差点から西区間）

○概要

南海トラフを震源域としたマグニチュード9.0の地震が発生し、県内で最大震度7を観測したことにより液状化及び大規模津波の発生、建物の倒壊、交通機関の断絶等甚大な被害が生じたものと想定し、緊急交通路確保訓練、放置車両等撤去訓練等を実施予定

3. 編集後記（事務局・協力団体のひとこと）

今月の編集後記を担当します、岐阜県防災課防災企画係

です。

このたびの令和 6 年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

能登半島地震の発生に際しては、岐阜県では、高山市等で震度 5 弱を観測しましたが、大きな被害はありませんでした。

一方で隣県の石川県及び富山県などで甚大な被害が出ており、1 月 2 日に知事をトップとする「岐阜県災害支援対策本部」を立ち上げ、県内の全市町村、関係機関と連携し、人的・物的両面から様々な支援に取り組んでまいりました。

今回の地震は、主要道路の寸断、ライフラインの途絶、多くの建物の倒壊や火災による焼失、多数の孤立などが同時多発的に発生し、さらに、元旦の発生で対応人員が不足していたことや、寒さや積雪といった厳しい条件も重なったことで、課題がより浮き彫りになってきております。

このような課題に対するため、本県では、「能登半島地震に学ぶ」という姿勢で、この 4 月からプロジェクトチームを庁内に立ち上げ、4 つのテーマ（①孤立やライフライン途絶の長期化への対策強化、②建物耐震化の促進、③避難所における生活・衛生環境の改善、④災害対応における県・市町村間の連携強化）を軸に、震災対策の見直しを行っております。

6 月上旬には、中間報告という形で「今後の震災対策の方向性」のとりまとめを行いました。国でも能登半島地震の検証を行っているため、国の検証結果の確認や市町村、関係機関への意見照会などを順に進めながら、対策の検討に繋ぎ、来年 1 月を目途に最終報告を行う予定としております。

地震に限ったことではなく、自然災害はいつ、どこで起こるかわからず、想定を超えるケースもございます。

「明日は我が身」ではなく、「今日は我が身」という危機感をもって、震災対策の強化充実を図ってまいります。

（岐阜県危機管理部防災課防災企画係）